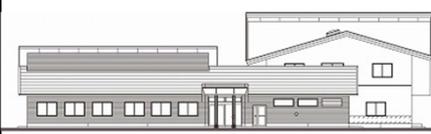
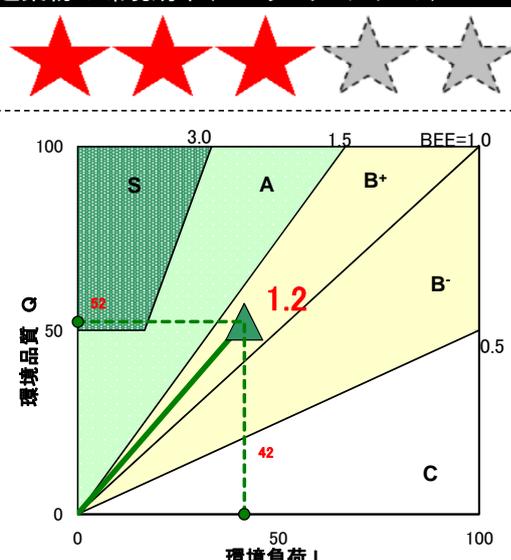


CASBEE® 熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	(仮称)特別養護老人ホーム ビハーラまどか新築工事	階数	地上2F		
建設地	熊本県水俣市月浦269番13	構造	S造		
用途地域	区域区分非設定・防火地域指定なし	平均居住人員	60人		
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760時間/年		
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2012年8月 予定	評価の実施日	2012年3月14日		
敷地面積	4,920㎡	作成者			
建築面積	1,671㎡	確認日	2012年3月15日		
延床面積	2,252㎡	確認者			

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



環境品質 G

環境負荷 L

BEE = 1.2

■ BEE(環境効率) = $\frac{Q(\text{環境品質})}{L(\text{環境負荷})}$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)



排出率

79%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



評価点

79

【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

【重点事項4】 循環型社会の実現

評価点

86.2

72.5

75.0

77.2

■ 熊本県重点評価基準

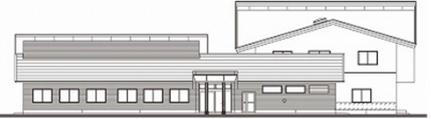
判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE®熊本《新築》【評価結果】

■使用評価マニュアル：CASBEE-新築（簡易版）2010年版 | 使用評価ソフト：CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)特別養護老人ホーム ビハラーまどか新築工事	階数	地上2F
建設地	熊本県水俣市月浦269番13	構造	S造
用途地域	区域区分非設定・防火地域指定なし	平均居住人員	60人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2012年8月 予定	評価の実施日	2012年3月14日
敷地面積	4,920 m ²	作成者	
建築面積	1,671 m ²	確認日	2012年3月15日
延床面積	2,252 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.2 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
 ①参照値 100%
 ②建築物の取組み 79%
 ③上記+②以外の 79%
 ④上記+ 79%

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.0

Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.1

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.3

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 2.8

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.3

LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.2

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.4

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.3

3 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価 評価点 = 79

重点事項1: 温室効果ガス排出量削減の推進 評価点 = 86	重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現 評価点 = 73
重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全 評価点 = 75	重点事項4: 循環型社会の実現 評価点 = 77

重点事項の評価(レーダーチャート)

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

本案件は、地域密着型全個室の1グループ9~10人からなるユニット型の特別養護老人ホームである。施設では、入所者が自分の家に居るような日々を送れる事やトイレ・浴室を含めバリアフリー対応とし、施設利用者に配慮した計画とした。

Q1 室内環境

- ・ 建築基準法規制対象外となる建築材料（F☆☆☆☆）を採用し、良好な室内環境を図った。
- ・ 共用部分ではトップライトを設け、昼光利用に努めた。

Q2 サービス性能

- ・ 設備の配管材では、できるだけ耐用年数の長い仕様を選定した。
- ・ 衛生器具でグリーン購入法適合品を採用。

Q3 室外環境（敷地内）

- ・ 既存の樹木を残し、環境の保全に努めた。

LR1 エネルギー

- ・ 照明、空調機器で高効率の機器を採用し省エネルギーに努めた。

LR2 資源・マテリアル

- ・ 非構造材料にリサイクル資材を採用し自然環境の保全に努めた。
- ・ 節水型便器を採用し、水資源の保護に努めた。
- ・ 消火器で不活性ガス消火剤を使用。

LR3 敷地外環境

- ・ 敷地内に緑地スペースをできるだけ設け、温熱環境に配慮した。
- ・ 分別が可能な廃棄物スペースを計画した。
- ・ 敷地内に浸透枳を2箇所計画し、雨水流出抑制に努めた。

その他

CASBEE-新築(簡易版)2010年版

■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2010年版

(仮称)特別養護老人ホーム ビハールまどか新築工事

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								3.0
Q1 室内環境								3.1
1 音環境		1.8	0.15	2.2	1.00			1.9
1.1 騒音		3.0	0.40	4.0	0.40			
1 室内騒音レベル		3.0	1.00	4.0	1.00			
2 設備騒音対策			-		-			
1.2 遮音		1.0	0.40	1.0	0.40			
1 開口部遮音性能		1.0	0.40	1.0	0.30			
2 界壁遮音性能		1.0	0.60	1.0	0.30			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	1.0	0.20			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-	1.0	0.20			
1.3 吸音		1.0	0.20	1.0	0.20			
2 温熱環境		2.7	0.35	2.6	1.00			2.7
2.1 室温制御		3.3	0.50	3.0	0.50			
1 室温		3.0	0.38	3.0	0.57			
2 負荷変動・過渡制御性			-		-			
3 外皮性能		3.0	0.25	3.0	0.43			
4 ゾーン別制御性	冷暖房選択可能	4.0	0.38		-			
5 温度・湿度制御			-		-			
6 種別制御			-		-			
7 時間外空調に対する配慮			-		-			
8 監視システム			-		-			
2.2 湿度制御		1.0	0.20	1.0	0.20			
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	0.30			
3 光・視環境		3.9	0.25	3.6	1.00			3.8
3.1 昼光利用		5.0	0.30	4.2	0.30			
1 昼光率	(共用)3.0% (住居)3.0%	5.0	0.60	5.0	0.60			
2 方位別開口			-		-			
3 昼光利用設備	(共用)トップライト設置	5.0	0.40	3.0	0.40			
3.2 グレア対策		4.0	0.30	4.0	0.30			
1 照明器具のグレア			-		-			
2 昼光制御	(共用)ブラインド+庇・軒 (住居)カーテン+庇・軒	4.0	1.00	4.0	1.00			
3 眩り込み対策			-		-			
3.3 照度		3.0	0.15	3.0	0.15			
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	0.25			
4 空気質環境		3.6	0.25	3.6	1.00			3.6
4.1 発生源対策		4.0	0.50	4.0	0.63			
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆の採用	4.0	1.00	4.0	1.00			
2 アスベスト対策			-		-			
3 ダニ・カビ等			-		-			
4 レジオネラ対策			-		-			
4.2 換気		2.0	0.30	3.0	0.38			
1 換気量		3.0	0.50	3.0	0.33			
2 自然換気性能			-	5.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮		1.0	0.50	1.0	0.33			
4 給気計画			-		-			
4.3 運用管理		5.0	0.20		-			
1 CO ₂ の監視			-		-			
2 喫煙の制御	全館禁煙	5.0	1.00		-			
Q2 サービス性能			0.30		-			3.3
1 機能性		3.3	0.40	4.6	1.00			3.6
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	5.0	0.60			
1 広さ・収納性			-	5.0	1.00			
2 高度情報通信設備対応			-		-			
3 バリアフリー計画		3.0	1.00		-			
1.2 心理性・快適性		4.0	0.30	4.0	0.40			
1 広さ感・景観			-	4.0	0.50			
2 リフレッシュスペース			-		-			
3 内装計画	別棟実例で事前検証	4.0	1.00	4.0	0.50			
1.3 維持管理		3.0	0.30		-			
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50		-			
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50		-			
3 衛生管理業務			-		-			
2 耐用性・信頼性		3.2	0.31		-			3.2
2.1 耐震・免震		3.0	0.48		-			
1 耐震性		3.0	0.80		-			
2 免震・制振性能		3.0	0.20		-			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.4	0.33		-			
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23		-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.23		-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	腰壁杉板(20年以上)	5.0	0.09		-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08		-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水・給湯・排水でBを使用	5.0	0.15		-			
6 主要設備機器の更新必要間隔	屋外受変電設備(20年)	4.0	0.23		-			

2.3 適切な更新						
2.4 信頼性			3.6	0.19	-	-
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-
2	給排水・衛生設備	グリーン購入法適合品、配管の系統を区分	4.0	0.20	-	-
3	電気設備	自家発電設備設置	4.0	0.20	-	-
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-
5	通信・情報設備	LAN設備	4.0	0.20	-	-
3 対応性・更新性			2.9	0.29	2.9	1.00
3.1 空間のゆとり			2.8	0.31	2.8	0.50
1	階高のゆとり		2.0	0.60	2.0	0.60
2	空間の形状・自由さ	(共用)比率:0.18(住居)比率:0.20	4.0	0.40	4.0	0.40
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	3.0	0.50
3.3 設備の更新性			3.0	0.38	-	-
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-
2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-
3	電気配線の更新性	仕上材を痛めることなく修繕、更新できる(天井点検口)	5.0	0.11	-	-
4	通信配線の更新性	仕上材を痛めることなく修繕、更新できる(天井点検口)	5.0	0.11	-	-
5	設備機器の更新性		1.0	0.22	-	-
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.22	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	3.3
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-
1 建物の熱負荷抑制			2.0	0.30	-	-
2 自然エネルギー利用			3.5	0.20	-	-
2.1	自然エネルギーの直接利用	トップライト設置	4.0	0.50	-	-
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-
3 設備システムの高効率化		高効率設備機器の採用	4.5	0.30	-	-
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)		ERR=26.9%	4.0	-	-	-
集合住宅の評価			3.0	-	-	-
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-
1 水資源保護			3.4	0.15	-	-
1.1	節水	節水コマ式、節水型便器	4.0	0.40	-	-
1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			3.3	0.63	-	-
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07	-	-
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	パーティクルボード	3.0	0.20	-	-
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.05	-	-
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	躯体と仕上材が容易に分別可能(軽間、軽鉄)	5.0	0.24	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.22	-	-
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.68	-	-
1	消火剤	不活性ガス消火剤使用	4.0	0.33	-	-
2	発泡剤(断熱材等)	発泡剤を用いた断熱材なし	5.0	0.33	-	-
3	冷媒		3.0	0.33	-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-
1 地球温暖化への配慮		高効率の設備機器を採用	3.8	0.33	-	-
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25	-	-
2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-
1	騒音		3.0	0.50	-	-
2	振動		3.0	0.50	-	-
3	悪臭		-	-	-	-
3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドライン項目の過半を満足、広告物照明なし	5.0	0.70	-	-
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-

熊本市重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 (仮称)特別養護老人ホーム ビハーラまどか新築工事

■評価ソフト: CASBEE-Ncb_2010(v1.3)_kmt2011(v1.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2011年版

★熊本市重点評価結果				総合評価点		79.4
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)	スコア	重み 係数				
① 温室効果ガス排出量削減の推進				86.2	0.40	34.48
Q1-2.1.3	外皮性能	3.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	5.0	0.05			
Q1-3.2.2	昼光制御	4.0	0.05			
LR1-1	建物の熱負荷抑制	2.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.5	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.5	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				72.5	0.20	14.50
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				75	0.20	15.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				77.2	0.20	15.44
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.4	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	2.9	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数